

## メインフレーム新製品 エンタープライズサーバ「AP8000EX」を販売開始



エンタープライズサーバ「AP8000EX」

日立製作所 情報・通信グループ(グループ長&CEO:古川 一夫、以下 日立)は、このたび、メインフレーム製品であるエンタープライズサーバ「AP8000E」の後継機種として、性能向上を図り、筐体デザインも一新した「AP8000EX」を12月9日から販売開始します。あわせて、基幹サーバとして堅牢なシステムを提供するためのセキュリティ機能や、遠隔バックアップなどのストレージ管理機能を強化し、ビジネス継続性を向上したオペレーティングシステム「VOS3/LS」も新たに販売します。

今後も日立は、ユーザーの既存資産を継承し、高信頼、高可用な基幹情報システムへのニーズに対応する製品の提供と運用支援を継続していきます。

システムの停止がビジネスチャンスの逸失だけでなく、その企業の顧客に対する信頼性を喪失するという重大なダメージにつながる今日、ビジネス継続性を高めるため、高信頼で高可用な企業システムの構築や、機密保護・情報漏洩などのデータ保全への対応強化といった、安心・安全で強固なプラットフォームの必要性がますます高まっています。そこで、企業の生命線である基幹データを保持し、基幹情報システムの中核を担うメインフレームにおいて、これらのニーズに対応した「AP8000EX」「VOS3/LS」を販売開始します。主な特徴は次のとおりです。

### ■エンタープライズサーバ「AP8000EX」、オペレーティングシステム「VOS3/LS」の特徴

#### 1.ユーザーニーズに対応する幅広いモデルラインアップを提供

プロセッサ単体処理性能を現行機種「AP8000E」の1.2倍に向上し、プロセッサを1CPU搭載するレギュラータイプと最大8CPU搭載可能なハイエンドタイプを提供します。また、システムの処理量に合わせたCPU性能を提供できるキャパシティリザーブモデルも用意しました。これにより、ユーザーニーズに合った最適なモデルの選択が可能となります。

#### 2.セキュリティ機能やオープンデータベース連携を強化したデータベース基盤機能を提供

「AP8000EX」上でオンライントランザクション処理を行うデータコミュニケーションマネジメントシステム「XDM/DCCM3」において、システムへの侵入や不正アクセスの監査情報を拡充しました。これにより、セキュリティ監査の充実を図ることができます。また、リレーショナルデータベース「XDM/RD E2」のインタフェースで異種DBアクセスを可能にするデータハブ(外部表)機能において、最新のデータベース製品「Oracle 10g」を今回サポートしました。

### 3.遠隔バックアップ運用効率化などストレージ管理機能を強化

従来はリモートサイトからメインサイトへの切り替えにおいて、全データをコピーしていましたが、日立の大型ディスクアレイサブシステム「SANRISE シリーズ」と連携することで、差分データのみのコピーが可能となり、コピー時間を短縮できます。これにより、遠隔地バックアップ運用の効率化が図れます。

### 4.システム統合や業務拡大をサポートするシステム拡張性を強化

最大 200MB/秒のデータ転送能力をもつ FIBARC(\*1) チャンネルによるメインフレーム間接続や「SANRISE シリーズ」との接続をスイッチングする FIBARC ディレクタを新たにサポートします。FIBARC チャンネルの高速性や複数のオペレーションを同時に実行する多重動作が可能である特徴を活かし、FIBARC ディレクタを中心とした大規模なストレージ共用を実現します。また、内蔵 LAN アダプタ(ILA2)のポート数を 1 台あたり 2 ポートへ拡張し、オープンシステムと連携する大規模システムの構築や、LAN 接続している現行メインフレームのシステム統合を実現します。

\*1) FIBARC: Fibre connection Architecture

### ■エンタープライズサーバ「AP8000EX」および「VOS3/LS」(OS 本体)の価格及び出荷時期

製品名	月額価格	出荷時期
AP8000EX	298 万 2000 円～ (税抜 284 万円～)(*2)	2006 年 4 月
VOS3/LS-JSS3	97 万 200 円 (税抜 92 万 4000 円)(*3)	
VOS3/LS-JSS4	107 万 1000 円 (税抜 102 万円)(*3)	

\*2)各種工事、サポートサービスは含みません。

\*3) AP8000/100EX プロセッサ使用時の料金です。

### ■他社商標注記

- ・Oracle 10g は、米国 Oracle Corporation の商標です。
- ・その他記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

### ■製品情報

<http://www.hitachi.co.jp/AP/>

### ■取扱事業部・照会先

株式会社 日立製作所 情報・通信グループ エンタープライズサーバ事業部 企画部 【担当:中山】  
〒259-1392 神奈川県秦野市堀山下1番地  
電話:0463-87-6786(ダイヤルイン)

以上

## ■ エンタープライズサーバ「AP8000EX」の特徴

### 1.ユーザーニーズに対応する新モデルラインアップを提供

基本モデルのラインアップとして1CPU搭載の100EXから1A0EXのレギュラータイプを9モデル、2～8CPU搭載可能な260EXから8A0EXのハイエンドタイプを11モデル、全20モデルを提供します。また、各モデルでユーザーの業務要求に合うCPU性能を提供するキャパシティリザーブモデルも用意し、ハードウェア、ソフトウェアを最適なコストで提供します。

### 2.FIBARC ディレクタを提供

FIBARC(\*1)チャンネルによるメインフレーム間接続や「SANRISE シリーズ」との接続をスイッチングするFIBARC ディレクタを新たにサポートします。これにより、FIBARC チャンネルの最大200MB/秒のデータ転送能力を活かした高速データ転送や、複数のオペレーションを同時に実行する多重動作ができます。

また、これまでメインフレームに直結していた機器をFIBARC ディレクタに接続することにより、使用するチャンネル数の削減ができ、FIBARC ディレクタを中心としたスター型接続の大規模なストレージ共用を実現します。

\*1) FIBARC: Fibre connection Architecture

### 3.内蔵 LAN アダプタのギガビットイーサネットモデルポート数を拡大

内蔵 LAN アダプタ(ILA2)のポート数を1台あたり2ポートへ拡張します。これにより、「AP8000EX」では最大128ポート搭載可能となり、オープンシステムと連携する大規模システムの構築や、LAN接続している現行メインフレームのシステム統合を柔軟に実現することが可能です。

### 4.アクセラレートプロセッサの性能強化と適用拡大

命令プロセッサの負荷を抑え、仮想テープ機能や磁気テープ装置へのバックアップなどの特定業務を実行するアクセラレートプロセッサの最大処理性能を従来の2倍に拡大したものを、ラインアップに追加しました。これにより、ユーザーの業務処理量に応じた性能のアクセラレートプロセッサを選択可能になります。また、今回、暗号ライブラリ「VOS3/Keymate」によるデータ暗号化処理などもアクセラレートプロセッサの実行対象とし、業務の拡大や新規業務の導入をサポートします。

## ■ エンタープライズサーバ「AP8000EX」の仕様

### 1.AP8000EX 基本モデルの概略仕様

表 1-1 AP8000EX レギュラータイプの概略仕様

構成装置		100EX	120EX	140EX	150EX	160EX	170EX	180EX	190EX	1A0EX
命令プロセッサ(IP)数		1								
交代プロセッサ		標準								
記憶装置(*2)	最大記憶容量	32GB								
	増設単位	512MB								
入出力プロセッサ(IOP)数		1 ～ 8								
チャンネル	合計チャンネル数	0 ～ 512								
	パラレルチャンネル(内数)	0 ～ 192								
	ACONARC チャンネル(内数)	0 ～ 512								
	FIBARC チャンネル(内数)	0 ～ 144								
ILA2(内数)		0 ～ 64								
データ圧縮機構		標準								
内蔵暗号機構		付加機構								

アクセラレートプロセッサ	付加機構	
キャパシティオンデマンド	IP、MS、AC	
浮動小数点拡張機構	標準	
プロセッサ資源分割管理機構	標準	
寸法(*3) (幅×奥行き×高さ)	720mm x 955mm x 1,720mm	
省エネ法に基づく表示	区分	区分外
	エネルギー消費効率(*4)	—

\*2)1MB(メガバイト)=1,024<sup>2</sup>バイト、1GB(ギガバイト)=1,024<sup>3</sup>バイトです。

\*3)基本構成(最大 64 チャンネル搭載)の場合の寸法です。

\*4)エネルギー消費効率とは、省エネ法で定める測定方法により測定された消費電力を、省エネ法で定める複合理論性能で除したものです。

表 1-2 AP8000EX ハイエンドタイプの概略仕様

構成装置		260EX、270EX、 280EX、290EX、2A0EX	3A0EX	4A0EX	5A0EX	6A0EX	7A0EX	8A0EX
命令プロセッサ(IP)数		2	3	4	5	6	7	8
交代プロセッサ		標準						
記憶装置(*5)	最大記憶容量	64GB						
	増設単位	512MB						
入出力プロセッサ(IOP)数		1 ~ 8						
チャンネル	合計チャンネル数	0 ~ 512						
	パラレルチャンネル(内数)	0 ~ 192						
	ACONARC チャンネル(内数)	0 ~ 512						
	FIBARC チャンネル(内数)	0 ~ 144						
	ILA2(内数)	0 ~ 64						
データ圧縮機構		標準						
内蔵暗号機構		付加機構						
アクセラレートプロセッサ		付加機構(*6)						—
キャパシティオンデマンド		IP、MS、AC	IP、MS					
浮動小数点拡張機構		標準						
プロセッサ資源分割管理機構		標準						
寸法(*7) (幅×奥行き×高さ)		1,455mm x 955mm x 1,720mm						
省エネ法に基づく表示	区分	区分外						
	エネルギー消費効率(*8)	—						

\*5)1MB(メガバイト)=1,024<sup>2</sup>バイト、1GB(ギガバイト)=1,024<sup>3</sup>バイトです。

\*6)モデル 3A0EX~7A0EX のアクセラレートプロセッサ搭載は個別対応です。

\*7)基本構成(最大 128 チャンネル搭載)の場合の寸法です。

\*8)エネルギー消費効率とは、省エネ法で定める測定方法により測定された消費電力を省エネ法で定める複合理論性能で除したものです。

## ■オペレーティングシステム「VOS3/LS」の特徴

### 1.データベース基盤機能を強化

#### (1)監査情報拡充によるセキュリティ監査機能を強化

「AP8000EX」上でオンライントランザクション処理を行うデータコミュニケーションマネジメントシステム「XDM/DCCM3」の監査情報として、認証証跡やアクセス証跡といったシステムへの侵入や不正アクセスの監査情報を拡充しました。これにより、より木目細かな情報によるセキュリティ監査の充実を図ることができます。

#### (2)監査情報のオープンサーバ上での管理機能を強化

監査情報を CSV 形式(\*9)のファイルに出力することができます。これにより、セキュリティ担当者がオープン系リレーショナルデータベース製品や表計算ソフトウェアなどに監査情報を読み込んで活用することができ、柔軟な運用ができるようになります。

\*9)CSV 形式:Comma Separated Values (データをカンマで区切って並べたファイル)形式

#### (3)データハブ機能を強化

リレーショナルデータベース「XDM/RD E2」のインタフェースでアクセスできる異種データベースとして、「Oracle 10g」をサポートします。これにより、「Oracle 10g」へ透過的にアクセスでき、柔軟なシステムが構築できます。

#### (4)構造型データベース「XDM/SD E2」静止化機能を提供

従来の「XDM/RD E2」に加え構造型データベース「XDM/SD E2」でも、二重書きされたデータベースの一方を静止化してオンライン業務を止めることなくバッチ処理を実行できるデータベース静止化機能をサポートします。これにより、オンライン業務と参照系バッチ業務の並列実行が可能となり、オンライン業務の連続稼動を実現します。

### 2.ストレージ管理機能を強化

#### (1)遠隔バックアップ機能を強化

災害対策センター運用支援機能「VOS3/Business Continuity Manager」において、リモートサイトのデータをメインサイトに差分コピーするリバースリシンク機能をサポートします。従来は計画停止などでリモートサイトからメインサイトへの運用切り替えにおいて、全データのコピーを行っていましたが、日立の大型ディスクアレイサブシステム「SANRISE シリーズ」と連携することで、メインサイトとリモートサイトの差分データのみのコピーが可能となり、切り替え時間を短縮できます。これにより、遠隔地バックアップにおける運用の効率化が図れます。

### 3.統合運用機能を強化

#### (1)総合利用者管理機能を強化

複数システムでユーザー登録簿(システムへのアクセス権限など設定した管理ファイル)を共有した場合でも、ユーザー毎に各システムの利用可否を設定可能としました。これにより、ユーザー管理の運用性向上が図れます。また、一定期間未使用のユーザーをログオン不可とするサスペンド機能においても、今回、ユーザー毎に未使用期間を設定できるようにしました。これにより、木目細かなユーザー管理を実現できます。

#### (2)JCL(\*10)のパラメータを指定するだけで暗号化できる機能を提供

磁気テープや仮想テープ出力時のデータ暗号化の際に、暗号ライブラリ「VOS3/Keymate」と連携し、JCLのパラメータを指定するだけでデータを暗号化できる機能をサポートしました。これにより、ユーザープログラムを作成することなく暗号化ができます。

\*10)JCL: Job Control Language (ジョブ制御言語)

## ■他社所有商標に関する表示

- ・Oracle 10gは、米国 Oracle Corporation の商標です。
- ・その他記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

以上

---

このニュースリリース記載の情報(製品価格、製品仕様、サービスの内容、発売日、お問い合わせ先、URL 等)は、発表日現在の情報です。予告なしに変更され、検索日と情報が異なる可能性もありますので、あらかじめご了承ください。

---